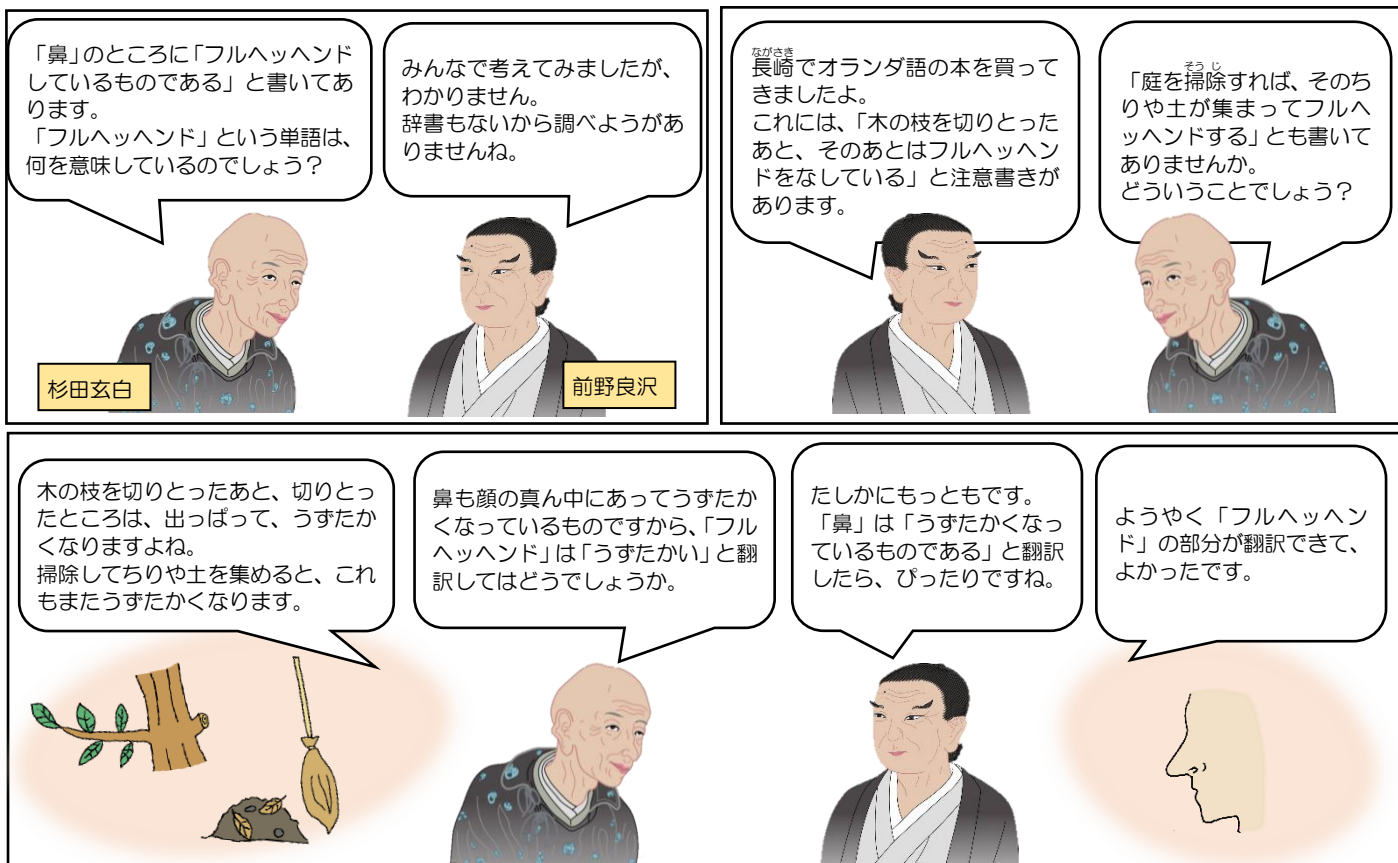


新しい学問を学んだ人たち

江戸時代には、鎖国をしている中でも、新しい知識を学び、生かそうとした人たちがいました。杉田玄白と、伊能忠敬の努力や苦労を見てみましょう。

オランダ語の医学書を翻訳する

『解体新書』は、オランダ語で書かれた医学書『ターヘル・アナトミア』を翻訳したものです。しかし、当時はオランダ語を日本語に訳した辞書也没有ありません。玄白はオランダ語がわからず、仲間の前野良沢がわずかなオランダ語を知っているだけでした。



↑ア 杉田玄白が思い出を書いた本にある翻訳についてのエピソード

伊能忠敬の測量

伊能忠敬の測量方法は、根気のいるものでした。地形にそって2か所を選んで杭を立て、間の長さを測ります。また、2点間を結んだ線が北の方位に対してどれくらいの角度かを調べました。これをくりかえすことによって、海岸線全体の形を調べたのです。

忠敬は、一定のはばで歩く訓練をしていました。一歩が69cmのはばで正確に歩くことができたそうです。



←イ 測量の様子（想像図）